固を國人に忠人加心中い輝な決三く今 めは家とは勇がつ得村日かる戦十忘日 たづをな居すあたを先にし日を八るは のか守っらぐの軍話生記た本し年る三 でしりてれれ大人さ校念の軍よ本事月 あめ國天なたなのれ長のでのう月の十 るず威皇か我る勇た先式あ大と本出日 。 まを陛つ軍露ま、生をる勝奉日来で す海下た人軍しこな行 `利天でぬあ く外の `のとくとどふ毎とにあ陸る尋 國に御我働戦且にのの年な會つ軍、五 を輝恩々きつ面又軍で我つ戦た記我 富かのもでて白こ隊あがてし、念が ませ萬やあ勝いののる學世た日日大佐 さ本一がる利御名話、校界が露で日々 う日にてをを話譽や本でに遂のあ本木 との報あ深得ああ我年は我に両る帝清 覺記ひつくたつる々はこが我軍、國治 悟念奉ぱ感のた大男田の武がは時國 をのつれぜも 、激子中目勇勇最は民 名てなず皆我戦の先出を敢後明の 軍 軍に 生度 の治永